艦隊これくしょん The Backrooms Escape

一般通過提督

【注意事項】

このＰＤＦファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にＰＤＦ化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でＰＤＦファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

長きに続く人類と深海棲艦の戦いは和平に終わった。

そして数年がたったある日、ある鎮守府の所属艦娘と提督が突如として失踪してしまう。

彼等はＴｈｅ　Ｂａｃｋｒｏｏｍｓに迷い込んでしまったのだ。

果たして、無事彼らはＴｈｅ　Ｆｒｏｎｔｒｏｏｍｓ（地球）に戻れるのか!?

この小説は艦これと４ｃｈ発祥のネットミーム

「Ｔｈｅ　Ｂａｃｋｒｏｏｍｓ」のクロスオーバーです。

一応処女作なので暖かい目で見て頂きたいです。
そして作者は艦これはゲームしか知りません。
口調がおかしいかもしれないですが大目に見て下さい。
追記：更新停止に伴いフリー素材化致します。
見て下さった皆様にはご迷惑をお掛けしますｍ（＿　＿）ｍ

目次

設定集 ―― 1
プロローグ ―― 9
Into The Backrooms ―― 14
第1生存者 ―― 22

設定集

設定

永山　大和

年齢　３２歳

誕生日　１２月９日

職業　提督、配信者、システムエンジニア

性別　女性

階級　大佐

練度　１７５

今作の主人公で元男。２２歳の誕生日に明石のよく分からん実験に巻き込まれ艦娘になった。名前の通り戦艦　大和の艤装が使え、その上練度も高く切り札的存在でもある。尚艤装は現代化改修が行われ、ステルス性が向上、イージスシステムを搭載しＣＩＷＳ・ＳｅａＲＡＭ、１２７㎜単相速射砲が舷側武装として換装され、１５５㎜３連装副砲は１５５㎜連装速射砲に変更、主砲の５１㎝砲もオートローダーにより３０秒で装填が可能になった。他には装甲材を複合装甲に変え、装甲配置を全区間防御にして艦首

と艦尾に１セル辺り８発のＶＬＳを合計５０セル搭載、機関の換装により最高速度は３１ｋｔを記録した。

ちなみに嫁艦の金剛とは２０歳の時に籍を入れている。

永山　金剛

年齢（？）　３０歳

誕生日　１１月３日

職業　特殊公務員（艦娘）、配信者

性別　女性

階級　中佐

練度　１７５

主人公の嫁。２５年もの間深海棲艦と戦い続けてきたベテラン。籍を入れたため永山姓となった。本人は実質的なハーレム状態を容認している。１４歳の時に妊娠し、艦娘も人であるという定義をつくった。

当然の如く艤装は現代化改修されているが、大和や千秋ほど派手な改装はされていない。あの二人の艤装がおかしいだけである。最高速度は３５ｋｔ

永山　千秋（ちあき）

年齢　１６歳

誕生日　１０月２０日
職業　学生、サイト編集者、特殊公務員（艦娘）
性別　女性
階級　准尉
練度　５７

主人公の娘。機械に対してとても強い。その力量には明石も思わずフリーズしたほど。サバイバル知識も豊富で超極限環境下にでも放り出されない限り大抵サバイバルナイフ１本で最低１ヶ月は生き延びられる。

よく北上や初雪とゲーム等をやっている姿を見かける。

艦娘としての艦種は高速戦艦であり、最高速度は４５ｋｔ。武装は装填時間１０秒の６５口径１４ｉｎｃｈ連装速射砲４基８門、７５口径１２７㎜単相速射砲６基１２門、ＣＩＷＳ４基、ＳｅａＲＡＭ４基、試作型対空レーザー、ＶＬＳ３５セルを搭載。全区画防御の新型複合装甲により対２６ｉｎｃｈ防御を獲得。当然イージスも載せてある。

そしてＴｈｅ　Ｂａｃｋｒｏｏｍｓについてもある程度知っている。

所属艦娘一覧

戦艦

★大和改二（改修済）

☆金剛改二丙（改修済）

☆千秋

武蔵改二（改修済）

長門改二（改修済）

陸奥改二（改修済）

比叡改二（改修済）

霧島改二（改修済）

榛名改二（改修済）

伊勢改二（改修済）

日向改二（改修済）

扶桑改（改修済）

山城改（改修済）

空母

赤城改二戊　（装甲空母化）（改修済）

加賀改二護（装甲空母化）（改修済）

飛龍改二（改修済）
蒼龍改二（改修済）
翔鶴改二（改修済）
瑞鶴改二（改修済）
隼鷹改二（改修済）
飛鷹改（改修済）
大鳳（改修済）
天城（改修済）
鈴谷改二航（改修済）
巡洋艦（雷巡・航巡含む）
最上改二（改修済）
三隈改二（改修済）
川内改二（改修済）
神通改二（改修済）
那珂改二（改修済）
阿武隈改二（改修済）
球磨改二丁（改修済）

多摩改二（改修済）
北上改二（改修済）Ｂａｃｋｒｏｏｍのアイテム・イベントを網羅
大井改二（改修済）
木曾改二（改修済）
天龍改二（改修済）
龍田改二（改修済）
夕張改（改修済）
大淀改（改修済）

駆逐艦

島風改（改修済）最高速度６８ｋｔ
雪風改二（改修済）
暁改二（改修済）
Ｂｅｒｎｫｙｊ（改修済）
雷改（改修済）
電改（改修済）
吹雪改二（改修済）
綾波改二（改修済）

白露改二（改修済）
時雨改二（改修済）
夕立改二（改修済）
五月雨改（改修済）
山風改二丁（改修済）
睦月改二（改修済）
卯月改（改修済）
初雪改（改修済）ＢａｃｋｒｏｏｍのＬｖ・ｅｎｔｉｔｙを網羅
涼風改（改修済）
秋月改（改修済）
照月改（改修済）
その他艦種
明石改二（改修済）
あきつ丸（改修済）
速吸（改修済）
伊４０１（改修済）
伊５８（改修済）

伊１６８（改修済）
呂５００（改修済）

世界観について

本小説における地球は、人類と深海棲艦が約９０年にも及ぶ戦争を繰り広げ、最終的に互いが望んだ和平交渉により終戦した。そのため、現実よりも少し未来である。

Ｔｈｅ　Ｂａｃｋｒｏｏｍｓも史実道理にネットミームとして誕生したが、「本物のＴｈｅ　Ｂａｃｋｒｏｏｍｓ」が存在していたという世界線である。

プロローグ

日本　太平洋側　某所
ｓｉｄｅ大和
「ε―（´ω、；）フゥ……ようやく終わったよ…」
私の名前は永山　大和。この鎮守府で提督をやっている。ちなみにこれでも元男だ。
と言ってももう何年も前のことだけど。
え？なんでこうなったかって？……まあとあるマッドの実験に巻き込まれたとだけ言っておくわ。
「今帰ったよ―！」
「おかえりなさい、千秋」
この子は千秋。私の娘よ。
千秋の年齢は１６。今年で１７になる高校生よ。
私は今年で３３歳。嫁の金剛は今年で３１になるわ。
って、誰に話してたんだろう？私は。
「とりあえず着替えてるくるから待っててね！」

「分かってるわよ？」
「何で疑問符なの…」
「まあまあ（　っ，∀、　）っ間宮パフェ後であげるから」
「え!?ホント!?急いで着替えてくる！」
「（⊠？⊠　）ァー　　走ってっちゃったよ…」
　まあ取り敢えずは食堂ｎｉ……
「!?（初代ガンダムでアムロが感じた時の音）」
　嫌な予感が……!?
　そこで私の意識はいったん闇に落ちた。
ｓｉｄｅ明石
「うーん……？どうすればテレポート装置が完成するんだ…」
「明石。頼まれたもの持ってきたよ。はいコレ」
「ありがと夕張」
　私は今夕張と一緒にテレポート装置を作ってるのだけども……見ての通り上手くいってないのだ。
「コレを…こうして…ココがこうで……ヨシ、パッと見よくなった。」
「じゃあ起動させてみる？」

「そうしてみようか…上手くいって欲しいのだけれど……」
「まあそこは何とかするしかないよね。」
「やっぱそうなるよね……じゃあ夕張。ちょっと電源入れてくれない？」
「分かった！」
　そう言って夕張は電源を入れに行ったのだが……これが全ての始まりだった。
「よし、入れるよ！」
「オッケー！何時でもやっちゃって！」
「行くよ！3…2…1…0!!!」
　そうして電源を入れたのだが……
バチッ！バチバチバチッ！
「!?!?!」
「ちょ、これ不味くない!?」
「夕張！今すぐ電源切って!!!」
「もうやってる！でも受け付けないの!!!」
「嘘でしょ!?」
グォオオオオオオオオオオオオオオオオ……
「ヤバ……！勝手に動きだした！」

「どうすんのコレ!?」
「分かんないわよ!?」
ドゴオオオオオオオオオオン!!!
「「キャアアアア!!!!」」
その時辺りが光に包まれ、私達の意識はそこで途切れた。
ｓｉｄｅ金剛
「それでネ～、○○が…」
「そうなんですね～。以外でした！」
その時ワタシたち姉妹はブッキー達とａｆｔｅｒｎｏｏｎ　ｔｅａを楽しんでましタ
準備の時に比叡がキッチンに立つのを阻止したり、途中でブッキーを誘ったり……
いつもの穏やかなひと時が流れていまシタ……
デモ……
ドゴオオオオオオオオオン!!!
「え!?何!?」
「い…一体何が……？」
「と…とにかく、急いで行った方が良さそうです！」

「霧島の言うとうりだネー！……!?ナニ!?」
「え？…どうしたんで…キャッ！」
「ふ…吹雪ちゃん!?…キャア！」
「榛名！　ウッ！クゥゥゥ!!」
　謎の光によって、その一時ハ崩れ去ってしまいまシタ…

Ｉｎｔｏ　Ｔｈｅ　Ｂａｃｋｒｏｏｍｓ

大和「ウッ……ココは…？」
（辺りを見渡す）
「なんなの……ココは……」
その時、倒れ伏している金剛たちを見つける。
「!!起こさないと！」
「それにしてもなんでみんな艤装をつけているの…？」
あああ～～～少女起こし中～～～
??「ッ……わ、ワタシは…？」
「目が覚めたのね。金剛…」
金剛「や、大和!?なんで居るノ!?」
「なんでって言われても…私だって気付いた時にはここに居たの……」
「……ひとまずこの状況は置いていくとして、まずはみんなを起こさないとね。」
「ソウダネー…」

あああ～～～～少女起こし中～～～～

「ッ……………私は一体……」

「うぅ…一体何なんでち…」

「「「…………イテテ」」」

「ハワワ！」「ニャシィ」「ピョン！」

あ～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

「(´・ω・｀)＝3　フゥ～………ひとまず全員起こせたみたい」

「ねぇ、もしかしなくてもここってBackroomsだよね？」「…多分そう」

「「ん？」」

「北上、初雪。何話してるの？」

「「あっ…えっとぉ…」」

「提督、話しずらいんだけどさ…多分ここってThe Backroomsっていう異次元だと思うんだよね。」

「うん…それでここには数え切れないほどのLv…フロアがあってほとんどがか危険なの…」

「えっ………！って言うことはココも!?」

「シッ！静かに！………今なにか聞こえた…」

グルルルゥ

「!!（小声で）みんな！よく聞いて！今近くにｅｎｔｉｔｙ…化け物が居るみたい。鳴き声からして群れで襲ってくるやつだから音を立てずに耳を澄ましながら移動して！」

「「「「「「「「分かった。わ。よ。にゃしい。なのです。ぴょん。」」」」」」」」

そうして一行は移動を始めたが、その頃鎮守府では

３月１５日午前１１時２５分アア×鎮守府×

メガァ、メガァーーーア゛ア゛ァーーー!!

オイ、テイトクタチガキエタゾ！　ドウナッテルンダ！

オンドゥルルラギッタンディスカ！

ナニイテンダ！

ナズェミデルンディス!!

デデドン！

エンダァァァァァァァァァァァァイヤァァァァァァァァァ

アァ、ワタサナイトイケナイショルイガ…

と、このようにコッチはこっちでかなり大変（カオス）なことになっている。

??（皆…一体何処へ行ってしまったというの……）

??「あら、ヲ級。浮かない顔してるわね。」
ヲ級「空母棲姫様…急に消えてしまった彼等のことを考えていたのです……」
空母棲姫「……貴方もなのね」
ヲ級「私も……？」
空母棲姫「何でもないわ。」
ヲ級「???」

空母棲姫（彼女たちが消えたとなるとかなりマズイわね……タカ派のヤツらの動きに歯止めが聞かなくなってしまう……！このままではいずれ以前の状況に逆戻りじゃない！どこに行ったのよ…！）

side out

艦娘side in

ハァッ、ハァッ、ハァッ、ハァッ！
大和「みんな無事!?」
「わ、私は大丈夫！」
「わ…私も……」（；д；）

「や…休ませて……」（；；ﾛ、）
ハァッ、ハァッ、ハァッ、ハァッ……フゥ…！フゥ…！
北上「…とりあえず撤けたみたい」
千秋「……点呼しよう？」
長門「確かにそうした方がいいな…」
大和「それじゃ点呼とるわよ！」
あああ～～～～少女点呼中～～～～
大和「結構居たわね…」
金剛「鎮守府にいた艦娘はみんな来てるみたいデース」
千秋「……ヤバッ」
北上「それちょっと不味くない？」
明石「ちょっとどころかかなりマズイですよ！」
夕張（パチ　パチ）そろばん使用中
陸奥「ここから出ることってできるのかしら…？」
あきつ丸「出れなくてココで一生を終えるのは嫌でありますよ！」
ざわ・・ざわ・・・　ざわ・・ざわ・・・　ざわ…ざわ…
北上「アァもう！みんな静かに！」

初雪・千秋以外（ビクッ！）

北上「今から私と初雪が説明するから！しっかり聞いて！」

初雪「此処からは私の出番…

恐らくだけどココはＴｈｅ　Ｂａｃｋｒｏｏｍｓって呼ばれてる場所…そしてレベルという形で階層分けされてる…そしてレベルの数はどっちかは分からないけど…９９９か９２２京３３７２兆３６８億５４７７万５８０７のどっちか…」

北上・千秋「ッ…！やっぱりいつ聞いても多い…」

その他一同「!?!?」

初雪「……まあそうなるよね…それで、ココがレベル０『ロビー』と呼ばれてる場所…この空間は約１５兆㎡を超える広さでずっと同じ風景が続いてる……」

その他一同「」

初雪「それで、ｅｎｔｉｔｙって呼ばれてるＢａｃｋｒｏｏｍｓ内の生物何だけど、ここには２種類居て、ハウンドとフェイスリングっていう奴がいるの…で、ハウンドは四つん這いの人間みたいな見た目で、犬のような動きで襲ってくる…でも目を合わせ続けて威嚇すれば一瞬怯むから、その隙に逃げるのが一番。でも出来るなら倒してもいい…でも噛まれちゃダメ、奴らの唾液にはウイルスが含まれていて、噛まれた時に感染する…そして１～３分以内に切り落とすか若しくは殺害しないと……ハウンドになって

しまうの…そして見た目と裏腹に力は強い…

フェイスリングはいわゆるのっぺらぼうで、大人のフェイスリングと子供のフェイスリング、そして突然変異種がいるの…大人のフェイスリングは煽らなければ友好的だけど、子供のフェイスリングは敵対的なの…でも驚かしてきたりするだけのこともある…あと頭を撫でると眠るから注意散漫になる。あと、真っ黒な奴は気を付けて。とても敵対的で普通の人間よりも強いから…」

北上「まあ説明はここまでにして、次のレベルに行こうか。」

瑞鶴「それってどう行くのよ。」

北上「どっかにある階段を下りるか穴に飛び込むと行けるよ。」

陸奥「あら、以外に簡単ね。」

千秋「あー、でも…延べ１００㎞ぐらい移動するとＴｈｅ　Ｍａｎｉｌａ　Ｒｏｏｍに飛ばされるって記事に書いてた気が……」

初雪・北上「合ってるよそれで」

千秋「やっぱり…」肩を落とす

その他一同「??Ｔｈｅ　Ｍａｎｉｌａ　Ｒｏｏｍって何(なのです)(っぽい)(だ)(よ)?」

初雪「１０ｍ四方の部屋で、俗に言う安置何だけども…」

一同（北上・初雪・千秋除く）「何だけども？」
初雪「有名が故に、犯罪者が待ち伏せてたり有毒物質が撒き散らされたことがあったりするの……」
一同（北上・初雪・千秋除く）「うわっ……」
北上「まあそう言うことだし、探索。しよっか？」
一同「もちろん！」

画して、彼らの放浪記は始まった。

第1生存者

～～～前回のあらすじ～～～

Ｂａｃｋｒｏｏｍｓに飛ばされてしまった大和達。
しかしｅｎｔｉｔｙが近づくのを察知し、一同は難を逃れる。
そして他の生存者達と接触する為、
次のレベルを目指して動き出した。
果たして、彼らは無事にたどり着くことができるのか。

ｓｉｄｅ大和

スッ……スッ……
「初雪。今どれぐらい歩いたか分かる？」
「んー……大体１００００歩位だから…７ｋｍぐらい？」
「ここまで１度もｅｎｔｉｔｙに会敵しないって、私達運がいいみたいだねぇ。」

「あとどれ位で次の場所に着くんでしょう…」
「こういう場所じゃ艦載機使えないから、早く広いとこ出たいんだけど…」
「(ちょっと皆精神がやられて来てるなぁ…) ……!皆、止まって」
!!「!!」ピタッ

ズザッ…ズザッ…ズザッ…ズザッ…
「ねぇ!これって!」
「…イヤ、まだ断定できない。Ｆａｃｅｌｉｎｇかも知れない。」
「息を潜めて……!」
ズザッ…ズザッ…ズザッ…ズザッ…
『……』
??「ハァ…何なんだよココ。いきなり飛ばされたし…」

「……まさかホントに生存者だとは」
「しかも日本人だよね？多分」
「雪風ちゃんのおかげなのです」

「えへへ／／／」
??「ん？誰かいるのか？」
「あっ！向こうも気づいたみたいです！」
「ちょ、明石！何があるのか分からないんだから静かに！」
「さすがに大丈夫だって。ほら」（指差し）
『あっ…』
??「あっ、どうも」
『ど…どうも……？』
『……』
??（やっべぇ何話せばいいんだよというか全員美人！でもどこかで見た希ガス）
大和「あ…あの？生存者の方…ですよね？」
生存者「あ…あぁ、はい。」
大和「名前を聞いてｍ「はい！もちろん喜んで！」」
『シ――――ッｄ（（？皿？　；）』
「す、すみません…えと、自分、永沢（ながさわ）　豊（ゆたか）と言います。」
大和「豊さんと呼んでもいいですかね？」

豊「そ、そんな!･さん付けだなんて恐れ多い!呼び捨てしもらって構いませんよ!･」
一部（（睨））
豊「ちょ、やめ、そんなに睨まないで…」
武蔵「……ン〃ツン〃ン」
赤城「…とりあえず、次の場所に行きましょう。」
加賀「赤城さんの言う通り、ここに長く居続けるのは余り良くないわ。次に進みましょう。」
北上「何やかんやで話纏まったみたいだし、行こっか?･」

探索中

あれから１５㎞程歩いたが何も起こらない。
不気味だ。
「何でこんなにも静かなの…?･」
「不気味クマ（だニャー）」

「ど、どっかにダクトないかな（焦）」
「姉さん……」
「ずっと同じ景色で頭おかしくなりそうだよ…」
「そうですわね…」
「うう…怖いよ……」
（不味い…皆かなり精神に来てる……）
「……あれ？あそこから景色が違う！」
北上「!!みんな！その先がｌｅｖｅｌ１だから！急いで！」
『ハイ!!!!』
ズッズッズッズッ！
「やった！着いた！」
初雪「まだ安心しちゃダメ…」
豊「??ここは安全何じゃないのか？」
初雪「そんな事一言も言ってない…」
『!?!?』
千秋「はぁ…みんな初雪の話をちゃんと聞いてなかったって事？」
「聞いてたけど…」「安全だと思ってた…」

北上「……聞いてなかったってことじゃん。」
『仰る通りです、ハイ』
豊「????全く話についていけないんだが？」
千秋「こっちの話なので知らなくても大丈夫です。」
豊「余計気になｒ「気にしないでください。」…ハイ」
北上「ともかく、まだここは安全なわけじゃないから。
先ずは前哨基地を目指さないと。」
イムヤ「…で、その前哨基地って言うのは何処にあるの？」
北上「それは分かんない…何せココはｌｅｖｅｌ０よりも１部屋１部屋が大きいし、
それが何百万マイルと続いてるからねぇ…」
時雨「……つまり、歩き続ける他にないってこと？」
千秋「まあ分かりやすく言うとそういうこと」
天龍「流石にこれは俺でも嫌だぞ……」
木曾「俺も天龍と同意見だ。さすがに歩き続けるのは堪えるぞ…」
秋月「でも、歩かないと会えるものも会えませんよ？」

ガヤガヤ　　ガヤガヤ

???「……」
吹雪「……？何かいる…？」
陸奥「どうかしたの吹雪？」
吹雪「いや、何でもないです……」
陸奥「そう？それならいいのだけれど。」
吹雪（さっきのは一体……？気のせいかな？）

???「ヴゥゥゥゥ……」

ああああああああああああああ？ｔｏ　ｂｅ　ｃｏｎｔｉｎｕｅｄ